

非売品



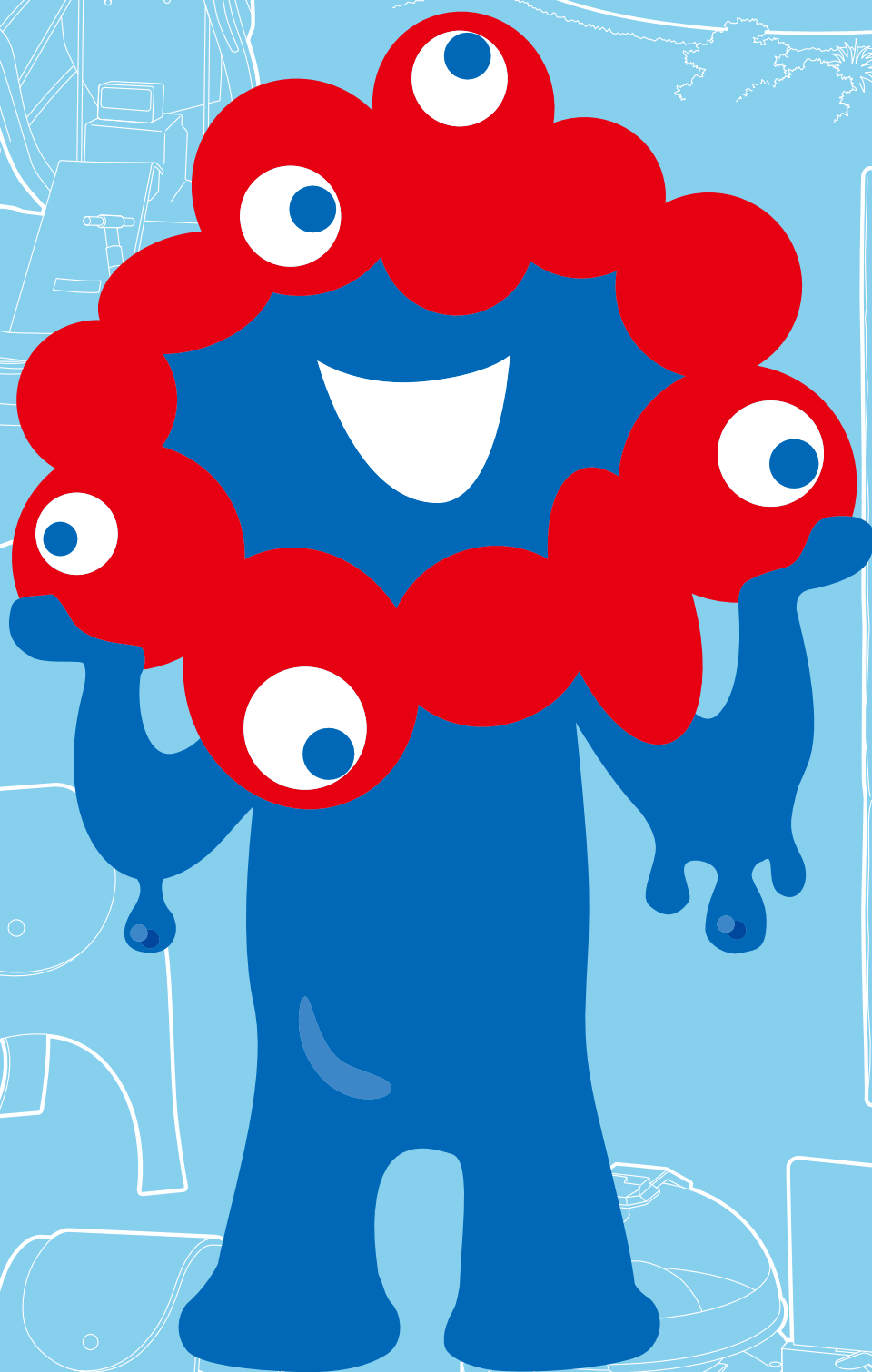
WEB版はこちら

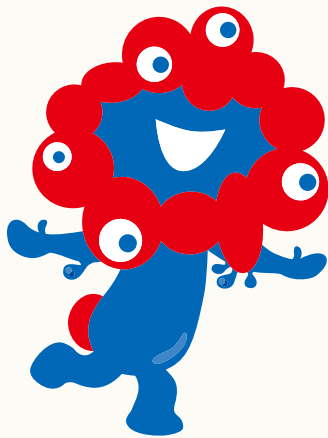
とっまよ

特別号

2025.
9.3発行

2025年大阪・関西万博を彩る
未来社会を築く『知財』





©Expo 2025
大阪・関西万博公式キャラクターミャクミャク

2025年大阪・関西万博を彩る 未来社会を築く『知財』

世界が注目するイノベーションの祭典「2025年大阪・関西万博」。会場には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに最先端の技術やアイデアが集結。本誌「とっきょ特別号」では、新しい時代の扉を開ける鍵となる“知財”の数々を紹介します。

**日本から、世界から集結！
進むべき未来への指針**

2025年大阪・関西万博は、2005年愛知万博以来20年ぶりとなる日本開催の大規模国際博覧会です。世界中から多彩なパビリオンが集い、先端技術や文化・環境に関する提案が披露され、国内外の注目を浴びています。コロナ禍を経て高まるリアルイベントへの期待、関西地域活性化への大きな弾みとして会場全体が熱気と希望に包まれる中、参加団体・企業は社会課題解決や新たな価値創出に向け、それぞれの技術・サービスを惜しみなく発信しています。

万博テーマは

「いのち輝く未来社会のデザイン」

万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」は、持続可能な開発、健康、共生を軸に、新しい未来への指針を示すものです。CO₂排出量を大幅に削減するコンクリート技術、循環型のものづくり、暮らしや医療を変える新発想、地球視点で新たな価値をデザインする家具ブランド、革新的な飲食サービス……、このテーマのもと展示される製

品サービスや施設の多くは、多様な知財（特許意匠・商標など）によって支えられています。知財は単なる権利保護にとどまらず、企業価値の向上や社会課題の解決、日本発の技術や文化を世界へ伝える原動力となっています。

社会を発展に導く、 数々の『知財』

本特別号では、万博で注目を集める5社の取組について、各社のキーパーソンにインタビュー。それぞれの企業は、どんな未来社会を展望し、どのように知財を活かした活動をしているのか。アイデアの具現化に取り組む現場の生の声や知財戦略の実例に触れることで、知財が今後の社会を形づくる“未来への力”であることを感じ取ることができるでしょう。

知財はものづくりやサービス、その根底にあるアイデアを守り、強くし、社会を発展に導く大きな可能性を持っています。2025年大阪・関西万博という舞台で躍動する日本企業の挑戦を実感し、未来とともに創っていく一歩を感じてください。本特別号が、知財の価値と可能性を考えるきっかけとなれば幸いです。



大阪・関西万博イメージ図

P.10

くら寿司株式会社
くら寿司 大阪・関西万博店

P.08

株式会社金森合金
災害廃材を活用した「サインスタンド」
(フューチャーライフヴィレッジ内)

P.11

株式会社カンディハウス
Co-Design Challengeプログラム
における木製椅子展示
(TEAM EXPOパビリオン／フューチャーライフヴィレッジ内)
木製家具展示
(ウエルネス・スマートハウス®)

P.06

株式会社サイエンス
ミライ人間洗濯機ほか
(大阪ヘルスケアパビリオン)

P.04

鹿島建設株式会社
CUCO®-舗装ブロック
(EXPOアリーナ「Matsuri」)
CUCO®-SUICOMドーム
(会場内西ゲート広場付近)

P.12

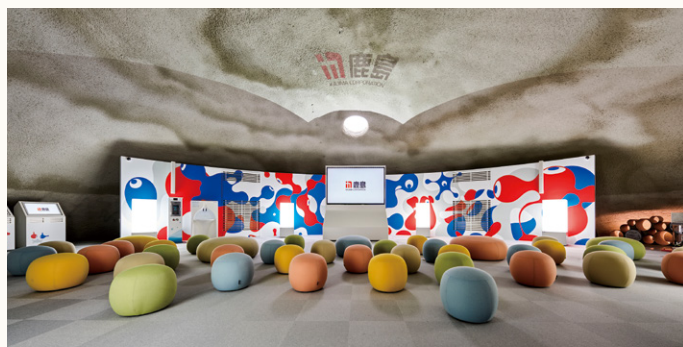
特許庁
「明日を変える知財のチカラ」
(EXPOメッセ「WASSE」)

鹿島建設の社外連携に見る 未来を見据えた建設業の知財のあり方

令和7年度「知財功労賞」において「大阪・関西万博特別賞」を受賞し、同万博では「未来社会ショーケース グリーン万博・ジュニアSDGsキャンプ」のブロンズパートナーとして、環境配慮型コンクリートドーム「CUCO®-SUICOMドーム」の建設や、体験型プログラムの実施など、SDGsへの貢献を目指した取組を行っている鹿島建設。他社と技術を共同開発するなど社外連携を行う中で、知財についてどのようにお考えなのか、同社の知的財産部長・櫻井克己さんに伺いました。



CO₂排出量を大幅に削減したCUCO®-SUICOMドーム(サステナドーム)
(写真提供: 鹿島建設 PHOTO: Hiroshi Matsuki [Solid-Design Lab])



サステナドーム内観: ドーム内の「KAJIMA謎解きベース」では、配布する謎解きMAPを手に、子どもたちが楽しみながら学べるプログラムを提供
(写真提供: 鹿島建設 PHOTO: Hiroshi Matsuki [Solid Design Lab])

大阪・関西万博会場に敷設されたCUCO®-舗装ブロック(写真提供: 鹿島建設)



未来への関心を育む 展示と革新的ドーム

鹿島建設では、大阪・関西万博のサステナドーム(ジュニアSDGsキャンプ)において、子どもたちがSDGsや脱炭素などの環境問題を楽しみながら考える場を提供しています。これは、建設業の地球温暖化対策への取組を体験しながら知ってもらうことを目的としたものですが、特に「重すぎるスタンプ」は想像以上の人気で列ができ、協力して押す子どもたちの姿が「微笑ましい」という声も多くいただいています。当社では、万博以前から「ジュニアEXPO」を通じて、CO₂をコンクリートに吸収・固定する「CO₂SUICOM」の技術やSDGs講義を行うなど、未来を担う世代への教育に力を入れるとともに、万博の機運醸成に尽力してきました。また、「WIPO GREEN」※1のパートナー企業として、SDGsの達成の貢献にも取り組んでいます。

当社は、材料起源のCO₂排出量を低減する技術「ECMコンクリート」※2や、製

鹿島建設株式会社

1840年創業の大手総合建設会社。土木・建築工事の設計・施工を中心に、不動産開発や海外事業も展開。高い技術力で国内外の様々なプロジェクトを手掛け、持続可能な未来に貢献している。



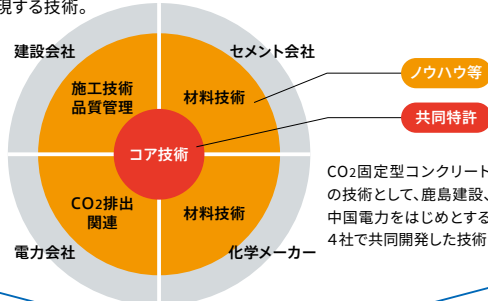
所在地: 東京都港区元赤坂1-3-1
URL: <https://www.kajima.co.jp/>
創業: 1840年(天保11年)
設立: 1930年(昭和5年)
業種: 土木建築及び機器装置その他建設工事全般に関する請負又は受託
従業員数: 8,219名(2024年3月末現在)

※1: WIPO GREEN: 世界知的所有権機関が運営する環境関連技術の普及とイノベーションを促進するためのプラットフォーム
※2: NEDO: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

オープンイノベーションによる知財開発で社会課題の解決を目指す

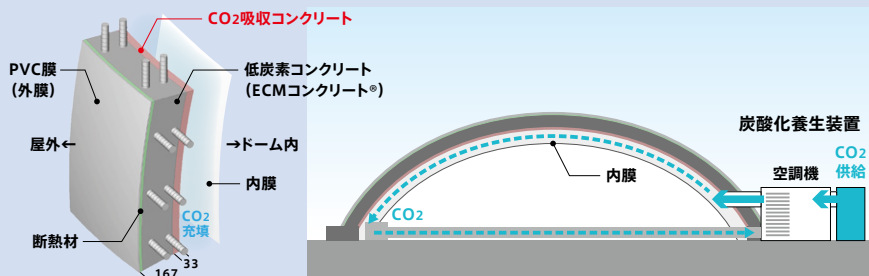
CO₂排出ゼロ以下を実現 CO₂-SUICOM[®]

高炉スラグ等を使用してセメントの使用を抑えて、さらにCO₂を吸収固定する特殊混和材(γ-C2S)を使用することで、CO₂排出量ゼロ以下を実現する技術。



CUCO[®]-SUICOMドーム

NEDOのGI基金事業の一環として開発された、CO₂の削減・吸収固定と曲面構造や複雑な形状の施工を同時に実現する「CUCO[®]-SUICOMショット」及び「ECMコンクリート[®]」と、鹿島建設と海外企業との技術連携によるドーム建築物構築技術「KTドーム[®]工法」を組み合わせて建設。



CUCO[®]-SUICOMドームの建設費用は、材料としてのコンクリート(ECMの吹付、CUCO[®]-SUICOMショット)及び炭酸化養生装置の開発をNEDO、それ以外を鹿島建設が負担。また、ECMコンクリート[®]は、上記1大学7企業で開発した技術をNEDO事業(GI基金事業)で吹付コンクリートにアレンジしたものを採用

造時にCO₂を吸収・固定するコンクリート「CO₂-SUICOM[®]」および炭酸化するための養生技術を開発し、実工事に適用してきました。2022年2月にNEDO^{※2}のグリーンイノベーション(GI)基金事業「CO₂を用いたコンクリート等製造技術開発プロジェクト」のコンソーシアム「CUCO[®]」において代表幹事会社となり、これらの技術を改良・発展させて万博の「CUCO[®]-SUICOMドーム」を建設しました。

オープンイノベーションと普及を目的にした知財対応

建築物の建設には材料、躯体、設備、地盤をはじめ非常に幅広い技術が必要ですが、一社単独でできることは限られています。ですので、建設業では「オープンイノベーション」という言葉が出る前から、社外連携は当然のこととして浸透しています。「CUCO[®]-SUICOMドーム」もそうですが、社外連携を進める際には特許等の知財を協力会社にオープンとすることで進めています。それは、技術を広める方が、迅速な社会貢献の実現や業界全体の底上げ、そして自社の利益向上につながることも多いからです。また特許だけではできないことも多く、ノウハウが非常に重要です。どこまでをオープンにするか、何をオープンにするかなど、トータルでの知財・技術戦略を進めることも重要と考えています。



鹿島建設株式会社
知的財産部長
櫻井 克己さん

大学等の産学連携活動に対する評価に関する調査事業委員(経産省)、知的財産を活用した海外展開支援事業委員(国交省)など。日本知的財産協会ではライセンス委員会の委員長を務めた後、2013年度～2015年度まで常務理事、2016年度～2017年度は副理事長を務め、2025年から常務理事に再任。同協会オープンイノベーションWGリーダー。技術経営博士。

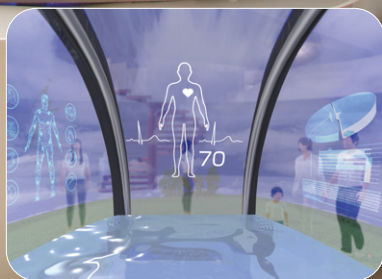
当社の知的財産部は、「IPランドスケープにより「いまの置かれている状況や」どんなことが予測されるのか」といった情報を各部署に提供し、非常に重宝されています。その背景には、情報の質だけでなく、これまでも先行特許の調査や契約の相談などで一緒に悩みながら支援してきたことへの信頼があるからだと思います。

産学連携やスタートアップ企業との連携も推進しています。こうした連携は利点ばかりに目が向けられがちですが、互いの文化や思考が異なるため円滑な連携の推進は容易ではありません。そのためには互いの理解に基づく「信頼」という人間関係の構築が重要で、知財部はその調整役として、連携が円滑に進むように努めています。私たち知財部は、社内、社外問わず、技術者たちの心のつながりを大切にしながら、「なんとかいものを作って世に出そう」という皆の情熱と努力を支援し、建設業の未来に貢献していきたいと思っています。

強固で多角的な知財戦略で、 圧倒的な競争優位性を確立



ファインバブルによる身体
の洗浄だけでなく、背面部
のセンサーで心拍やストレ
スを測定し、映画や音楽で
心身のリラックスを促進し
て“心を洗う”ことも提供す
る「ミライ人間洗濯機」



大阪・関西万博に出展した「ミライ人間洗濯機」が大きな注目を集めているサイエンス。

知財功労賞(大阪・関西万博特別賞)も受賞された同社の技術責任者である平江真輝専務取締役は、
万博出展の舞台裏から、同社が推進する知財戦略、そして未来への展望についてお話を伺いました。

70年万博の夢を追い 新しい未来の物語を紡ぐ

当社が大阪・関西万博への出展を目指したきっかけは、1970年の大阪万博で話題となった「人間洗濯機」でした。今回の非常に大きな挑戦は、当時小学生だった弊社社長の青山恭明がその展示に夢中になった経験もあり、「あの夢を、我々の技術なら実現できるのではないか」という思いから始まりました。

そして生まれたのが、体を洗うだけでなく「心を洗う」という新しい価値を提案する「未来の人間洗濯機」です。体験者が座ると内蔵センサーが非接触で心拍を測り、状態に合わせた映像と音楽で深いリラクゼーションへと導きます。この心拍測定技術は大阪大学の神吉輝夫准教授と共同で開発し、製品の形状や機構についての特許出願も進めています。

万博が始まると、国内外から大きな反響をいただきました。海外の方からは「未来の介護ユニットに見える」という、私たちもはっとさせられる視点を教えていた



株式会社サイエンス

「すべてのお客様に感動と喜びを与え続けること」を企業理念とし、健康・安心・美容・快適性を重視したもののづくりを実践。主に浴室用シャワーヘッドや浄水器等、泡を活用した独自技術製品を展開する「ファインバブル技術」専門メーカーとしてイノベーションを牽引している。

所在地: 大阪市淀川区西中島5-5-15
新大阪セントラルタワー北館5F
URL: <https://i-feel-science.com/>
設立: 2007年(平成19年)
事業内容: ファインバブル製品・セントラル型浄水装置の製造・販売・メンテナンス
従業員数: 80名(2025年7月現在)

できましたし、障害を持つお子様のケアに活用したいというお声も届いています。そして何より嬉しかったのは、普段から私たちの製品を使ってくださっているお客様が、我がごとのように喜んでくださっていることです。お客様に支えられて、この舞台に立てているのだと実感しました。ほかに、様々な展示を通して、ファインバブル技術の多様な可能性を紹介しています。

万博を機に、海外展開の本格化も検討しています。海外での知財保護は大きな課題ですが、互いを尊重できるパートナーと慎重に連携し、グローバルに挑戦していきたいです。そして、介護分野に加えて、JAXA等と連携しながら宇宙分野にも挑みます。宇宙での知財保護はルールが未確立な部分もありますが、宇宙生活のQOL※分野は、私たちが先行して切り拓いていきたいフロンティアです。

我が子のように製品を育て、 知財を「盾」に自らを守る

当社が考えるメーカーとしての責務

「ミラブルの要塞」とも言われる サイエンスの強固な知財戦略ポートフォリオ

製造

【自社製造の徹底】

製品の品質を徹底して担保し、中核となるノウハウや「ブラックボックス」化された技術が外部に流出するのを防ぐ。これにより、粗悪な模倣品との差別化を図り、ブランドの信頼性と市場での優位性を維持。

協業

【管理された協業体制】

外部への技術供与を基本的に行わず、自社製造を貫く。OEMや加工の一部を自社で行いながら、信頼性が高く、相互の知財を尊重できるパートナーとの共同研究や共同開発を重視。

製品

【知財ミックス戦略】

特許、商標、意匠、実用新案を組み合わせることで、製品とブランドを多角的に防御し、「サイエンスブランド」として包括的な保護を実現。また、技術の一部を公開せずブラックボックス化することで、技術の流出を防御。

特許等による他社との差別化

【コアとなるノウハウ】

【キーとなる部分】

ブラックボックス
(非公開)

特定技術

特定技術

権利化

特許権

特許権

特許権

実用新案権

商標によるブランドアイデンティティの確立

商標権

意匠による製品デザインの保護

意匠権

開発

【早期の知財出願】

製品完成を待たず、開発期間中にアイデアが生まれ機能性が確認できた段階で、積極的に知財出願。必ずしも全出願技術が製品に採用されるわけではないが、競合防御に先手を打つことが可能。

知財出願

知財出願

知財出願

知財出願

知財出願

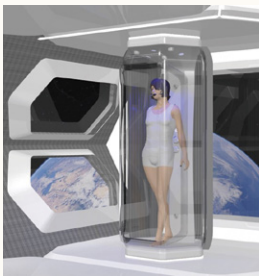
知財出願

知財出願

知財出願

知財出願

ファインバブル技術の多様な可能性を万博で展示



JAXAの協力を得て、JAMSS(有人宇宙システム)と共同開発した「宇宙シャワー」。水資源が貴重な宇宙での生活を想定



魚の飼育における溶存酸素管理にファインバブル技術を用いたアクアポニックス「いのちの湧水(いずみ)」



業務用ロボットの導入・運営ノウハウを持つUSENとサイエンスの技術が共同開発した、濡れないミストを噴霧するロボット

は、製品に命を吹き込むこと。こうした考えもあり、私たちは自社の製品を「我が子」と呼んでいます。そして、その製品にアイデンティティを与えるため、特許・意匠・商標といった知財の制度を包括的に活用しています。実は当社では、製品完成を待たずに開発期間中に積極的に特許出願することで、他社との競合を回避するようにしています。現在、ミラブル関連で21個の特許を取得しており、特に「トルネード

ミスト方式」(特許第6717991号)は中核技術として保護しています。また、開発戦略として、製品のキーとなる部分は特許等として出願する一方で、本当にコアとなるノウハウはブラックボックスとして秘匿し、技術の模倣を防ぎます。そして、製品の自社製造を貫くことで、ブラックボックス化した技術の流出を防いでいます。これにより、他社との差別化を図り、会社の価値を高めています。



株式会社サイエンス
専務取締役
平江 真輝さん

「泡の魔術師」とも呼ばれる、泡の生成・利用技術を中心に研究開発をリードする技術経営者。新しい発想と実用性を重視し、多方面で新しい価値を創出している。

当社には、「人々を驚かせるすごいものを作りたい」という思いが企業活動の根本にあります。その「すごさ」を支える裏付けが、知財です。今いる私たちが知財を会社に蓄積していくことで、企業としての継続的な成長と次世代への継承を目指しています。

当社にとって知財は、攻撃の「武器」ではなく、自社とお客様を守る「盾」です。過去に、海外で製造された私たちの製品のコピー商品が日本国内に入ってきたことがありました。その際、私たちが取得していた特許や商標があったからこそ、税関で輸入を差し止めることができ、国内の市場と、何よりお客様を守ることができたのです。この経験で、知財の重要性を改めて痛感しました。

技術と思いを未来へつなぐ、 新たな物語の創造へ

1714年創業の鑄造メーカー、金森合金。

24代目の高下裕子さんは、知財を駆使して自社ブランドを立ち上げ、

また万博での活動が知財功労賞（大阪・関西万博特別賞）に結実しました。

伝統と革新を両立させる挑戦について、お話を伺います。



「万博会場での案内役」と「記憶・刻印」の二つの意味を込めて金森合金が制作・設置したサインスタンドは、大阪・関西万博のフューチャーライフガイレッジエリアに設置されている



未来社会に伝えたい 「循環型ものづくり」

当社は創業以来、300年以上にわたる地域の金属廃材を精錬・製品化する「循環型ものづくり」を継承してきた企業です。今回、万博テーマの「いのち輝く未来社会のデザイン」に共鳴し、「Co-design Challengeプログラム」を通じて多様な活動を行っています。

中でも、未来社会ショーケース事業として取り組むのが、能登半島地震などの災害廃材から制作・設置する「記憶を紡ぐサインスタンド」です。これは廃材を資源化し、災害の記憶を紡ぎ人々の記憶を呼び起こす象徴となるものです。実は当初、石川県内の金属廃材を利用する計画でしたが、準備期間中に能登半島地震が発生して計画を変更。能登の災害廃材から再生したサインスタンドを制作することを決めました。この取組を通じて、災害廃材がゴミではなく未来へつなぐ資源であることを伝えたいと思ったのです。

廃材が溶け、箸置きなどに生まれ変わ



株式会社金森合金

1611年（慶長16年）加賀藩主に技術を認められ、鑄物師（いもじ）七人衆の一人として高岡鑄物の礎を築く。「釜八」の屋号を受け継いで現在は24代目（高下裕子さん・写真右側）。明治以降は金沢を拠点に銅合金やアルミニウム合金を中心とした鑄造を手掛け、産業用機械部品からロケット部品素材、自社ブランド「KAMAHACHI」のテーブルウェアまで、多品種少量生産で幅広いニーズに応えている。左は代表取締役（23代目）の父・金森和治さん。

所在地：石川県金沢市松村6丁目100番地
URL：<https://www.kanamori1714.jp/>
創業：1714年（正徳4年）
業種：砂型鑄造メーカーとして産業用機械部品、ロケットの部品素材から、自社ブランド「KAMAHACHI」の企画・製造・販売まで多品種少量生産で手掛ける。
従業員数：10名（役員3名、職人6名、アルバイト1名）（2025年6月現在）



使用済みのヘアカラー剤アルミチューブと新聞印刷時に使用する刷版と呼ばれるアルミ製の板を活用した工芸品「ORIZARA」

さらにタカラベルモント様、読売新聞社様と共同で、使用済みヘアカラー剤アルミチューブや新聞刷版を活用した工芸品「ORIZARA」を制作。シグネチャーパビリオン「Better Co-Being」併設のショップで展示・販売しています。

このような、私たちの「循環型ものづくり」による活動が、知財功労賞 大阪・関西万博特別賞の受賞につながったことは大変喜ばしく思っています。



製品特徴や製造方法で 特許権を取得

銅の抗菌・消臭効果が花が長持ちすることに着目して開発された「針のない剣山®」。石川県知財総合支援窓口からのアドバイスを受け、機能性に優れる特徴や形状と製造方法において特許権(第7391363号)と商標権(登録第6606092号)を取得。

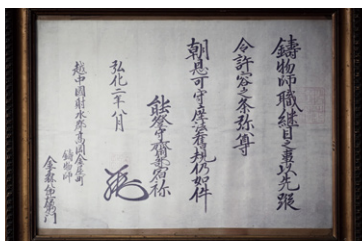
300年以上受け継ぐ 屋号と家紋を商標登録

...

24代目の事業継承の一環として立ち上げられた自社ブランド「KAMAHACHI」。1714年に創業した金森八郎右衛門の屋号と、加賀藩に忠誠を尽くし、その下支えをするという職人の信念を表す金森家の家紋「裏菊菱」を商標登録(登録第6321753号)。



KAMAHACHI
from KANAMORI



江戸時代後期ごろに発行された「鑄物師」に関する職業継承の許可証

能登半島地震で生まれた災害廃材を、職人の手仕事による鑄造技術でサインスタンドとして再生。単なる展示物ではなく、震災の記憶と資源循環の可能性を未来へと継承する金森合金のものづくりの象徴が、知財功労賞(大阪・関西万博特別賞)の受賞理由の一つとなった



江戸時代から継承する伝統的砂型鑄造を、職人指導のもと体験できるワークショップも実施している

自社ブランド「KAMAHACHI」では、アルミの熱伝導率の良さを活かし、温度変化を楽しめるテーブルウェアを中心に展開



お客様とつながるブランド創設 中小企業にこそ知財の力を

さて、私が7年前に実家に戻り事業継承を始めたころの当社は、1000年近くB to Bの機械部品製造が中心でした。昔のように、生活者の方々と直接つながるものづくりを取り戻したい。その思いから、創業時の屋号を冠した自社ブランド「KAMAHACHI」を立ち上げました。

しかし、当初は知財の知識が全くなく、

石川県の支援機関の方に助言をいただくまで、その重要性に気づいていませんでした。最初の製品「針のない剣山®」がメディアで紹介されると、ECサイトに驚くほど多くの模倣品が出現したのです。その時、事前に「針のない剣山®」の商標権を取得していたことで、模倣品の出品者に対し「登録商標であるため、商品名の使用を控えてほしい」と自分たちのブランドを

守ることができました。この経験を通じて、「地方の小さな会社だからこそ、時間と情熱をかけて築き上げたものを守るために知財は不可欠だ」と痛感しました。

現在は、特許は弁理士の方にお願ひしつつ、国内商標はINPI(工業所有権情報・研修館)に相談しながら自社で申請するなど、コストも意識しながら知財ポートフォリオを構築しています。新しい視点や意見交換など、私と同じような後継者などが集まるコミュニティからの情報も、とても参考になっています。

私たちの製品一つひとつには、素材の背景や職人の技術といった物語があります。知財権は、単なる防御策ではなく、その物語のオリジナリティを証明してくれる存在です。自分たちが作ったものが特許として認められることは、職人たちの大切なモチベーションにもなっています。

今後は、金属だけでなく生産時の熱エネルギーや砂なども再利用する「循環型ファクトリー」を目指しています。これからも伝統技術を核としながら、新たなものづくりの物語を創造し、未来へとつないでいきたいと思っています。



株式会社金森合金
24代目
こうげ ひろこ
高下 裕子さん

大学卒業後、広告代理店に勤務。2016年にUターンし、2019年にライフスタイルブランド「KAMAHACHI」を立ち上げるなど、伝統技術と現代的なマーケティングを融合させ、事業承継を進めている。

「安心」+「万博」の斬新発想で特許取得 知財を武器に、新たな食体験を提供

大阪・関西万博を通じて「世界のレストランに革命を起こす」ことを目指すくら寿司。
日本発のアイデア「回転寿司」の安全性を知財によって守り、
さらに積極的な知財戦略で独自サービスを進化させる、
同社の競争力の源泉や未来への展望について、岡本浩之取締役本部長にお聞きしました。

〔写真右〕平成25年に特許権を取得、令和6年度 近畿地方発明表彰で
発明奨励賞を受賞した抗菌寿司カバー「鮮度くん」(特許第5416288
号)(商標登録第5419903号)は、くら寿司が「回転寿司」を提供する
ための中核をなす知財
〔写真下〕万博仕様の「鮮度くん」は、連結機構(特許第7583346号)
および連結部の形状(意匠登録第1782063号ほか)で知財権を取得



©Expo 2025

競争力の源泉となる知財戦略を展開

国内初、内装意匠登録



国内で初めて内装意匠登録されたグローバル旗艦店「くら寿司 浅草ROX店」(意匠登録第1671153号ほか)

「楽しさ」や「体験価値」を向上



「血回収ボックス」に空になった皿を入
れ、アタリが出ると景品がもらえる「ピッ
くらポン!」(商標登録第4536804号)

気軽にサプライズを演出できる
「プレゼントシステム」(特許第
7611455号)



回転寿司業界での独自性を築く、 経営と直結した知財戦略

大阪・関西万博に出展するにあたり、
当社が掲げたコンセプトは「回転ベルト
は、世界を一つに」です。今、世界的に不安
定な要素が多い中、始まりも終わりもな
い回転ベルトの周りで、世界中の人々が
各国の料理を食べることで笑顔になっ
てほしい。そんな願いを込めました。

この思いを形にしたのが、万博特別仕
様の抗菌寿司カバー「鮮度くん」です。世
界の料理と日本の寿司を乗せた二つの
カバーが、万博カラーの手で握手をする
デザインで、「ハンズハンズプロジェクト」
と名付けました。そのベースとなっている
のが平成25年に特許を取得している抗
菌寿司カバー「鮮度くん」。くら寿司のビ
ジネスモデルの中核をなす、極めて重要
な知財で、「鮮度くん」があったからこそ、
コロナ禍でも寿司をレインに流し続ける
ことができ、お客様に安心を提供できま
した。

当社の知財戦略は経営と直結してお
り、経営会議の場ではアイデアが出た瞬
間に「それは特許を取れるか」「商標を抑

えるように」というやりとりが交わされ
ます。知財担当者もオブザーバーとし
て常時参加し、アイデアの背景を理解した
上で知財化を進めます。お客様に「記憶に
残る楽しさ」を届けたという思いが、国
内初の「内装の意匠」登録を受けた浅草の
店舗や、「ピッくらポン!」のようなユニ
ークな体験価値の創造につながってい
ます。そのようなアイデアを守り、競争力
の源泉とするのが我々の知財戦略です。

そして今、当社が見据えているのは「世
界のレストランに革命を起こす」という
未来です。スタッフがお客様の席まで料理
を運ぶというスタイルは、古くから変わっ
ていません。しかし、人手不足が深刻化す
る世界において、ウェイターやウェイトレ
スをほとんど必要としない回転寿司のビ
ジネスモデルは、大きな可能性を秘めて
います。この革命を寿司だけでなく世界
の食文化で実現するため、今後は「世界で
通じる知財をいかに取得するか」を重視
しています。海外では当社のビジネスモ
デルを模倣する店もできており、特に
アメリカ市場での独自機能に関する知財
取得も視野に入れ、グローバルな視点で
の知財戦略を進めていきます。

くら寿司株式会社
取締役本部長
おかもと ひろゆき
岡本 浩之さん



三洋電機や江崎グリコで広報を歴任し、
2018年にくら寿司入社。2019年から広
報宣伝・IR本部長、2021年より取締役とし
て知財戦略や企業価値向上に取り組む。

くら寿司株式会社

「無添」にこだわる独自の回転寿司
チェーンを展開し、イノベーション
や食の安全、環境対応を追求。知的
財産や技術開発、独創的なサービ
スを通じ、国内外で新しい「食」の価
値を創造し続けている。

所在地: 大阪府堺市中区深阪1-2-2
URL: <https://www.kurasushi.co.jp/>
創業: 1977年(昭和52年)
設立: 1995年(平成7年)
業種: 回転寿司チェーン「無添くら
寿司」の経営
従業員数: 2,824名(2024年10
月末現在)

万博を地域連携と世界発信の好機に、旭川の物語をデザインに乗せて

令和7年度の知的財産権制度活用優良企業として特許庁長官表彰を受賞した木製家具メーカー、カンディハウス。デザインを核とした経営とそれを支える知財戦略、そして大阪・関西万博に込めた思いを、染谷社長に伺いました。



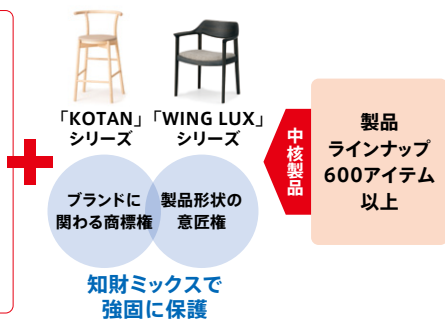
TEAM EXPOパビリオン「Co-Design Challenge プログラム」では、IFDAより生まれたカンディハウス製品計5脚を提供し、品質・デザイン・北海道産材の魅力を発信

画像提供：2025年日本国際博覧会協会

デザイン経営を支える知財戦略

将来的に視野

- 生産技術の仕組み
- 製造過程の技術
- 個々の製品名に関する商標登録
- 海外での意匠権の取得や模倣品対策を重要視



株式会社カンディハウス
代表取締役社長
染谷 哲義さん

明治学院大学法学部卒業。1996年にカンディハウス（旧インテリアセンター）入社。主に企画分野を担当し、2017年常務、2020年専務を経て、2021年3月より代表取締役社長に就任。

デザイン経営を核に、知財ミックスでブランド保護

大阪・関西万博では、「Co-Design Challengeプログラム」の選定団体として旭川家具工業協同組合がTEAM EXPOパビリオンに参加しており、当社は協力企業として製品を提供。旭川で3年毎に開催される「IFDA」から生まれたものを中心に、意匠や機能性だけでなく、デザインのコンセプトやストーリーも評価された製品を展示しています。

また、飯田グループホールディングス様のパビリオンでは、未来の住空間の展示である「ウエルネス・スマートハウス」の中に当社の家具を展示。当社では現在、世界28か国地域と取引していますが、この万博という国際的な舞台は、我々のものづくりの背景にある物語や、木の家具がもたらす心地よさを世界中の方々に直接伝えられる絶好の機会になりました。

当社には「デザインは最も重要な経営資源」という企業理念があり、「デザイン経営」を標榜しています。デザインとは、色や形といった狭義のデザインに留まらず、材料調達から開発、製造、販売、アフターサービスに至るまでの一貫した事業プロセス全体を設計（デザイン）することの意味し、家具を通じて「ライフスタイルを豊かにすること。こうした価値提供により、持続的な競争優位性を確立することを目指しています。300名近い従業員に「デザイン経営」を浸透させることは簡単ではありませんが、年

初の経営基本方針発表など様々なシーンで言及することで、常に意識してもらえるように努めています。

私は、その実践のために「知財ミックス戦略」を推進。特に、海外展開やロングセラーを目指す中核製品については、意匠権や商標権の取得を進め、ブランド価値の保護と模倣品に対応しています。当社製品は椅子だけでも約40シリーズと多いため、個別の製品名に関する商標権取得は優先順位を付けて取り組む必要がありますが、製品名なども今後は対象に加えていく予定です。

また、木材調達から製造工程までの技術的ノウハウにも磨きをかけています。当社の北海道産材の使用率は10年で8%から80%に向上し、CO₂排出量の削減にも貢献。こうした製造プロセスや技術についても、将来的には特許などの形で権利化することを検討しています。

知財は、企業が積み重ねてきた創造の成果を「見えるかたち」で守り、継承するための仕組みです。これからも、地域に根ざしながら世界とつながる企業であるために、知財を軸とした経営を一層強化していきます。

株式会社カンディハウス

国内外のデザイナーと協働し、北欧モダンデザインや北海道産材活用、サステナブルなものづくりを推進。グローバル市場へ日本ブランドを発信し、長期使用を前提とした高品質な家具を提供している。

所在地：北海道旭川市永山北2条6丁目
URL: <https://condehouse.co.jp/>
設立：1968年（昭和43年）
業種：住宅・オフィス・コンラクト家具の製造・販売、特注家具およびホームファニッシング関連商品ほか
従業員数：296名（2025年7月現在）

～ 想いを届ける、
世界をよくする ～

明日を変える知財のチカラ

The power of Intellectual Property builds tomorrow.

- Delivering your passion, making our world a better place -

特許庁は、「知財のチカラ」を発信する展示イベントを、2025年大阪・関西万博で開催します。

会社の規模にかかわらず社会課題の解決を推進していける「知的財産のチカラ」。

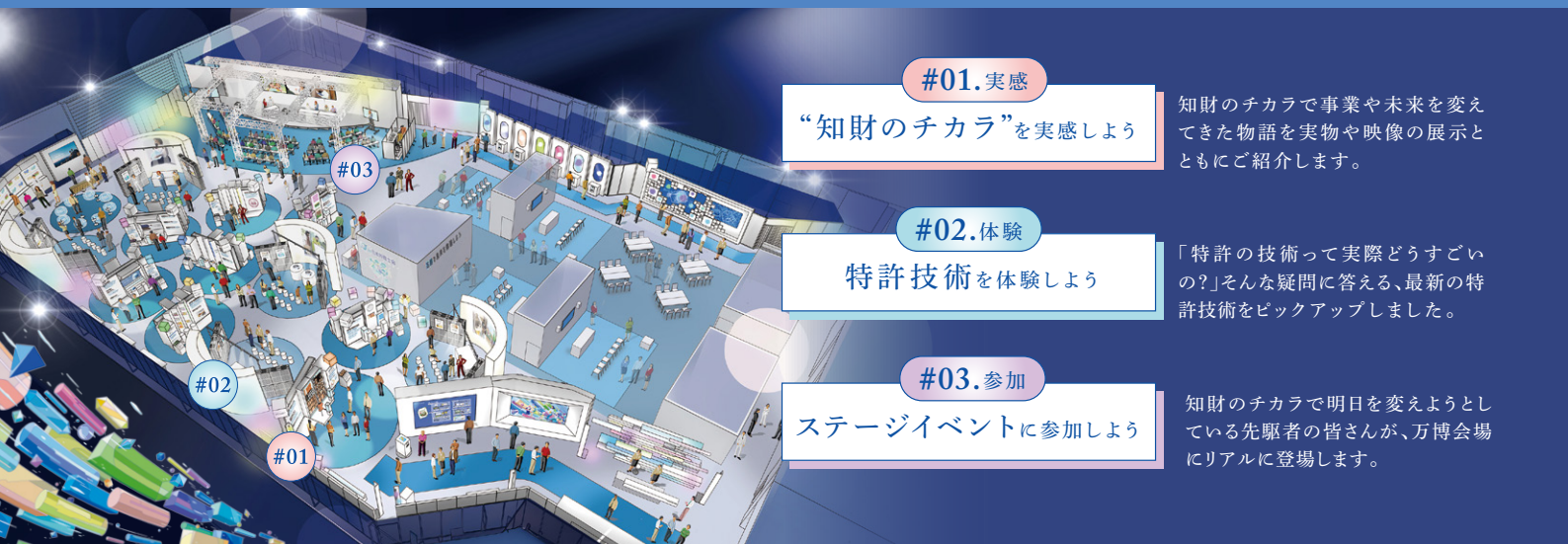
このイベントではそんな「知財のチカラ」を、事例や体験を通じてお伝えします。

ぜひ、あなたやあなたの会社の未来にお役立てください。

開催期間

2025年10月2日[※](木)～10月10日(金) / 9:00～21:00 ※10月2日のみ 18:00～21:00

場 所 大阪・関西万博会場 EXPOメッセ(WASSE)(大阪府夢洲) 来場予約不要 W11



#01. 実感

“知財のチカラ”を実感しよう

知財のチカラで事業や未来を変えてきた物語を実物や映像の展示とともにご紹介します。

#02. 体験

特許技術を体験しよう

「特許の技術って実際どうすごいの?」そんな疑問に答える、最新の特許技術をピックアップしました。

#03. 参加

ステージイベントに参加しよう

知財のチカラで明日を変えようとしている先駆者の皆さんが、万博会場にリアルに登場します。

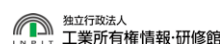
主催



共催



出展



とっま 特別号

発行: 2025年9月3日 制作: 特許庁広報室

WEB版はこちら

※バックナンバーも
ご覧になれます



お問い合わせ先: **03-3501-6792**
(特許庁広報室直通平日9:00～17:30)
E-Mailアドレス: PA0270@jpo.go.jp